３、第２学年の取り組み

（１）算数チャレンジの取り組み

時　　期	内　　容
１学期始め頃 （算数のオリエンテーションの時）	・算数チャレンジの目的と方法を伝える。 ・教科書の音読を中心に、宿題として算数チャレンジに取り組ませる。
１学期の中頃	・校内研究の提案を受け、算数チャレンジの目的と方法を再確認する。 ・音読にプラスして問題が解ける場合はチャレンジするようにさせる。
１学期の終わり頃	・全校授業研を受けて、授業の始めに算数チャレンジの理解度チェックを行う。
２学期始め頃	・算数チャレンジの目的と方法を再確認し、宿題として継続して取り組ませる。
２学期の中頃から終わり頃	・算数チャレンジをしていることを前提とした授業の導入と学習の振り返りを行うことを少しずつ定着させる。
３学期	・算数チャレンジの目的と方法を再確認する。 ・算数チャレンジの方法を少しずつ中学年のレベルに移行していく準備を行う。

（２）算数チャレンジに取り組んだ成果（◎）と今後の課題（●）

◎児童一人一人の理解度に差はあるが、その時間に学習するところを音読していることで、ある程度内容がわかっている状態で学習に臨むことができ、授業のハードルが少し下がったように感じる。

◎今まで時間をかけていた導入から一人学びの過程が短くなり、テンポ良く授業を進めることができる単元が多くなった。それに伴い、習熟の時間を多く確保できるようになった。

◎授業の中で理解度をチェックすることで、分からなかったことが分かるようになったり、分かったと思っていたことがさらに説明までできるようになったりというように、理解度の上がった児童の学習意欲に向上が見られた。

●理解度チェックをする場合の規準を確認しておくことが必要である。

●４月当初から宿題にしていたが、アンケートの結果を見ると取り組んでいない児童もいる。低学年の児童にも算数チャレンジの目的や良さがわかる手立てが必要だと思う。

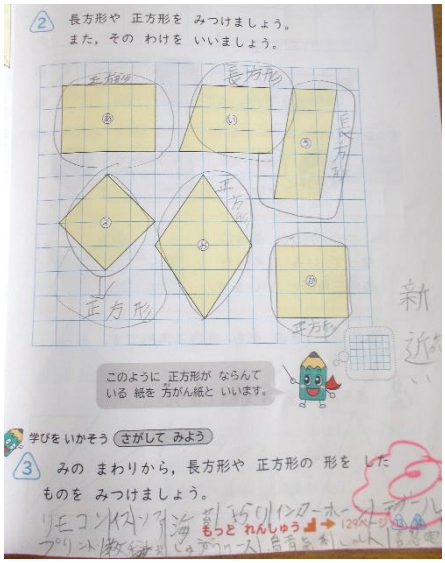
●説明までしっかりできる理解度 A の児童の割合が少なく、個別の支援が必要な児童の割合が多いため、児童同士の学び合いをうまく取り入れることができていない。

●習熟度に合わせた問題の準備が十分ではない。教科書の適用問題→巻末の「もっと練習」→ドリルまで解き終わった児童への問題のレベルを考えるのが難しい場合がある。タブレットがもっとうまく活用できればと思うが、適切なアプリがなかなか見つからない。

（３）目指す児童の姿として参考となる資料

【算数チャレンジをした教科書】

家庭学習で問題を解いたり自分の考えを書き込んだりすることができている。（資料１・資料２）

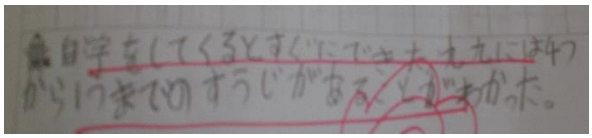


資料１

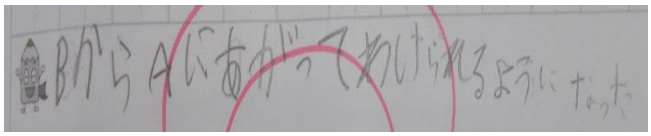
資料２

【授業の振り返りを書いたノート】

算数チャレンジを行った良さや自分の理解度が授業前の算数チャレンジの段階ではＢ評価だったものが、授業後にはＡ評価に変容し、授業を通して何が出来るようになったのかを授業の振り返りの段階で明記することが出来ている。（資料２）（資料３）



資料３



資料４

【交流タイム】

一人学びで解決した問題の考え方を児童がお互いに説明し合うことができている。（資料５・６）

資料５

資料６